

MLと反帝が対立 学苑会



対案の議案書をめぐり紛糾の学苑会大会

「対案議案書」をめぐり

11日 学苑会大会收拾つかず

十一日に開かれた学苑会(宮久久雄委員長)の定例学生大会は、学苑会中執の「議案書」に反対して、反帝学評系が「対案議案書」を提出。この「対案議案書」をめぐり、両派折衝を重ねたが、採決の結果、取り上げることには決定しなかった。しかし予定時間オーバーのため翌日の継続大会に持ち越した。

立候補制により議長に濱田君(文)と、副議長に松田君(文)議長団の松田君が突然発言「一本」を提出した後、議題入り、大会には中執(学生解放戦線の)

議案書とは別の「対案」が大会開始前に提出されており、それを先に審議すべきである」と主張した。この発言により、壇上および代議員席は騒然となり、議事は一旦中止となった。そのあと、中執(学生解放戦線)系は「対案」をめぐり、両派折衝を重ねたが、採決の結果、取り上げることには決定しなかった。しかし予定時間オーバーのため翌日の継続大会に持ち越した。

そのあと、中執(学生解放戦線)系は「対案」をめぐり、両派折衝を重ねたが、採決の結果、取り上げることには決定しなかった。しかし予定時間オーバーのため翌日の継続大会に持ち越した。

系)「対案」派が忙しく動き、取捨をめぐらした。八時五分に再会になり、松田君が「対案を現在の学苑会中執が官僚的に取上げないので、議長を降ろす」として、降壇。次に、本間慶学苑会副委員長が「人事案の欠けている議案書は対案として認められないが、学生の意見を受け入れることには変わりない」と釈明。これに対し、反帝学評の坂野君が「民青に活動を許す現在の学苑会を闘う学苑会へと導びきたい。現在の一部共闘は、反民青統一戦線ではなく、スケジュールの確認の場ではないか」と批判した。

十五分ごろから、この一年間の経過報告がなされ、そのあと、一時間にわたって本間君から総括がなされ、「ボツボツ自治会を止揚して全共闘運動へと発展してきて、さらなる飛躍のうえで、六月安保決戦がある」と位置づけられた。このあと、代議者の平田君(文)から、「学苑会中執が官僚的に押しつづけた議案書についてどう判断をしたのか」という質問が再び質疑委員会と議長団に出された。中島資格審査委員長が経過を報告、「さきほどの十五分休憩したのち委員で再度協議したが、必要

条件が満たされていないとしてながらも、六名のうち審査しようとする者三名、受理しない者名となり、委員会が判定せず、議長は判断に任せたと答弁した。また、本間君が「学苑会の運動を一年間やれるよう賞を獲得できるのか」と反帝学評を意識した発言をしたため、ヤジが飛びかいた。これに対し、反帝学評系学生から「現在の学苑会、一部共闘が必ずしも大衆的でない。クラス、サークル段階まで活動をやっている」とのヤジが飛んだ。

本間君は、「学苑会運動のおかげに、クラスの意見を聞いては当然あり、全共闘運動については全面的バックアップしてゆきたい」と説明した。九時二十分、議長が議長資格委員会から出された十分間の休憩要請を受け、二度目の休憩はいったオプサーバー席からは、「ボス交やめよ」、「大衆的にやれな」とのヤジが飛んだ。五分、対案を取り上げられるかどうかの採決をすることになり、議場を閉じた。

採決の結果、出席代議員九〇名、大委員長七名、執行部を五七名のうち、取り上げることに賛成五七名(クラス大委員長七名)、反対一名(クラス執行部委員長名)、保留一名、棄権五名で、対案を取り上げることには決定した。しかし会場使用制限時間(午後十時)を過ぎていたため、翌日午後六時より九時まで継続審議することになった。なお、翌日の大会は流れ、学生解放戦線系学生と反帝学評系学生が五号館地下一階で衝突し、反帝学評系学生の十数人が重軽傷を負った。(詳細は次号)